

フリースペースかめっこ

令和7年9月22日発行
 特定非営利活動法人亀っ子サポート
 事務所
 〒519-0103 亀山市川谷町766番地7
 ☎:0595-86-6186
 e-mail:kamekko@zc.ztv.ne.jp
 文責 煤谷 英一

ボランティアスタッフを募集しています

「フリースペースかめっこ」は、令和3年度に亀山市教育委員会が、子ども居場所事業を始めるにあたり、特定非営利活動法人亀っ子サポートが委託事業を受託し、開所することになった子どもの学校以外での居場所です。

勤務時間は、9:15～15:00の6時間程ですが、2時間・3時間の勤務など御相談に応じます。また子どもの体験活動や屋外活動などの場合は、活動中だけの勤務も可能です。

勤務内容は、基本的には子どもの見守りです。また時間外での学習支援の申し入れがある場合は、別途に支援をお願いしています。

報酬は、時間給で月ごとに支払いをしていますが、10月実施分の支払いから、1時間1,100円とする予定です。

子どもを支援することから、教員免許をお持ちの方や子どもの見守りに興味のある方の登録を歓迎します。よろしくお願いします。

「フリースペースかめっこ」スタッフ募集
 ～一緒に居場所をつくってみませんか～

何らかの理由で学校に行くことができなかったり、学校に生きづらさを感じている子どもたちのために、亀山市教育委員会と協働して校外での居場所活動をしています。

「フリースペースかめっこ」では、

- ①学校以外の場所がほしい
- ②居場所がほしい
- ③一人でも笑顔になってほしい

という思いで、子どもの自らの学びを大切にしながら、人格を尊重し、子どもの心に寄り添っていくことを基本に活動します。そのため、様々な体験学習を通して自らの力を知るとともに、自己学習を進めていきます。

子どもにとって、身近で頼りやすいスタッフたちの寄り添いは、生きる力を培うための最良の糧となると言えます。是非ご参加をお願いします。

活動場所
 「フリースペースかめっこ」
 〒519-0103 亀山市川谷町766番地7

活動内容
 読書やおもちゃのづくり、スポーツ、学び等の指導や補助をしていただきます。
 (例)
 A: 教科学習・活動の支援
 (理科実験、読書、図画・図工、図解・図鑑関係の支援、家庭学習など)
 B: 教科外活動の支援(体験、伝統芸能・文化など)
 C: フリータイムの支援
 D: 児童への生活学習(読書・学習支援など)
 E: 児童とのふれあい(図画、図解、図鑑、読書、体験、さまざまな相談など)

申込方法
 所定の申込書に必要事項を記入して、写真2枚(縦4cm×横3cm)を添えて、直接事務局へ提出して下さい。当日電話で聞き取りを行いますので、必ず電話番号をご記入下さい。

問合せ先
 特定非営利活動法人亀っ子サポート事務局
 〒519-0106 亀山市みどり町65番地2
 ☎0595-82-7234 ☎090-9194-7366

問合せ先

フリースペースかめっこ

TEL 0595-86-6186

「フリースペースかめっこ」に通所しませんか
 ～学校以外に居場所を～

何らかの理由で学校に行くことができなかったり、学校に生きづらさを感じている子どもたちのために、亀山市教育委員会と協働して校外での居場所活動をしています。

「フリースペースかめっこ」では、

- ①学校以外の場所がほしい
- ②居場所がほしい
- ③一人でも笑顔になってほしい

という思いで、子どもの自らの学びを大切にしながら、人格を尊重し、子どもの心に寄り添っていくことを基本に活動します。そのため、様々な体験学習を通して自らの力を知るとともに、自己学習を進めていきます。是非ご参加をお願いします。

活動場所
 「フリースペースかめっこ」
 〒519-0103 亀山市川谷町766番地7

活動内容
 読書やおもちゃのづくり、スポーツ、学び等の指導や補助をしていただきます。
 (例)
 A: 教科学習・活動の支援
 (理科実験、読書、図画・図工、図解・図鑑関係の支援、家庭学習など)
 B: 教科外活動の支援(体験、伝統芸能・文化など)
 C: フリータイムの支援
 D: 児童への生活学習(読書・学習支援など)
 E: 児童とのふれあい(図画、図解、図鑑、読書、体験、さまざまな相談など)

申込みについて
 学校おしり、下記問合せ先へお問い合わせください。
 亀山市教育委員会学校教育部 ☎0595-86-6186
 特定非営利活動法人亀っ子サポート事務局 ☎0595-82-7234

「フリースペースかめっこ」に通所しませんか

様々な理由で学校に行きにくくなった児童生徒のために、それぞれの子どものにあった見守りを進めながら、社会力をつけていくことが求められています。

学校では、長く公共の場に必要の望ましい行為を習得するための集団指導が行われてきました。しかし、不登校の子どもの将来や進路保障を考えると、個々の子どもの発達や特性に目を向けた個別の課題を包括した集団指導をどのように進めるかが問われ続けています。

学校は、今後も様々な子どもの課題を内包しつつ集団指導の内容を確立していくと思いますが、現在悩んでいる子どもに寄り添うことを考えると、学校だけでなく校外にも居場所を設けることが必要と考えています。

「学習の遅れは、子どもの将来を不安にする」と考える身近な人たちの心配は、子どもをより不安に陥れます。

自己肯定感が低くなった子どもと寄り添い高めるには、ゆっくりとした時間と子どもの話に耳を傾けることが大切と考え実践しています。

是非ご相談を